

タイトル「脳卒中のリハビリテーション」

～今後の理学療法士に求める事～

森之宮病院 神経リハビリテーション研究部  
矢倉 一

## 1. 患者一人ひとりを定期的に評価することの重要性

当院では、多角的リハビリテーションの一環として、各スタッフが分担して患者の障害の程度を評価しています。具体的には、下記の通りです。

医師：NIHSS(National Institute Health Stroke Scale), SIAS(Stroke Impairment Assessment Set), MRI 評価

セラピスト：FMA(Fugl Meyer Assessment), 10m walking

看護師：FIM (Functional Independence Measure)

神経心理士：各種高次脳機能検査

これらを毎月の総合実施計画書作成にあわせて、評価します。こうした評価が臨床研究にどのように結びついていくかを、私のいくつかの論文を紹介しながら説明します。

## 2. 現状にとどまらず、常に新しいリハビリテーション・アプローチの可能性を探る

通常のリハビリテーションに加えて、motor imagery、mirror therapy、BFO を用いたの上肢機能訓練等を組み合わせて脳卒中患者の機能回復に取り組んでいます。その一部をご紹介します。これらの有効性をいかに証明していくか、その取り組みについても説明します。